

## コリント人への手紙第二 第4章 16節

「ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」

季節が変わり、草花や樹木の様子が徐々に変化している。酷暑の夏で生物が変化するスピードは少々遅かったり、早かったりする。いずれにしても秋、冬と枯れる季節へと移行しているのは確かだ。植物のシーズンが終わり土にかえる。

自然界を愛でる者にも地上の旅の終わりは確実に迫っている。その兆しが衰えである。たとえ私たちの外なる人は衰えても、とある。たとえ私たちの外という。たとえ衰えがきたとしても、の主旨は、衰えは誰にも、すべての者にとということである。私たちの外なる人の衰えはくる。外なる人とはどういうことだろうか。生まれながらの人であろうか。変化し衰え朽ちてゆく人の性質を外なる人というのだろうか。チリとなってゆくすべてが外なる人だろうか。

他方内なる人は日々新たに。されています、とある。衰えてゆくことに対して、新たにされています、と受け身として語られる。主なる神が、滅びゆく私たちの内なる人を日々新たにしてください。内なる人は、主なる神に捕らえられ、生かされている人である。だから、私たちは勇気を失いません。

2023年9月21日